

12月21,22日 鳳凰二山 朝倉

冬山テント泊山行から長く遠ざかっていたので自分の今の實力を知るために鳳凰三山への山行を計画した。

初日は樹林の中の長い登りの連続で我慢の一日であった。積雪は登り口にはほとんどなく落葉松林の明るい中を行くが、やがてコメツガ中心の暗い森となる。これがかなり長く続き苺平の少し手前でたぶんダケカンバであろう低木の疎林が現れ、日が当たり始めると疲れた体に暑さが気になってくる。この辺りで夜叉神峠以来の白根三山が全容を再び現した。泊装備のザックがこたえてくる。ゆっくり、ゆっくり、小幅、小幅と唱え、不思議な力にも助けてもらうが急登になると10歩登っては立ち止まり、5歩歩いては立ち止まる。これでは高所登山ではないかと苦笑してしまう。

苺平からは平たんというよりむしろ標高を下げるので楽になるがその分明日登らなければならぬ。宿泊場所で今夜と明朝の水を汲んでテントで寛ぐ。

夜間、小用にテントから出ると月が明るく出ていて周囲の黒々とした森の樹上に残っている雪を白く浮かび上がらせ、テント場の平地では雪の粒粒がキラッ、キラッと輝いていた。

寒い中しばしたたずんでしまった。

翌日は、暗い中（月はまだ明るかったが）ヘッドランプの明かりを頼りにテントを出る。今日もいきなりの急登から始まる。前日の疲労がまだ太ももに残っている。積雪は50～60cmくらいだろうか。トレースはしっかりついているが今日も氷化していなければアイゼンを使わないつもりだ。

次第に暗さが薄れ始め明るさが戻り始めてくる。東の山際が赤に、紫になりだした。さらに明るさが増したとき妙なものを見たと思った。このような場所にあるはずのないもの。それは赤橙色をした半透明のパラフィンが散らばっていると見たのだ。振り向いてアッと声を上げそうになった。真っ赤なそれでいて正視に耐えられない忌まわしい不気味な色をした太陽が山の端から昇ってきたところだった。そこから届いた光が幾重にも重なった針葉樹の梢を抜けて雪面に届いていた光景だった。さらに明るさが増すと赤い色もそれにつれ薄れていきやがて雪の白さだけが残った。

南アルプスは森林限界が高いということか、樹林帯はなおも続いて森林限界に達したのはもう山頂も間近になった頃であった。森林限界を超えると風は一気に強まる。手袋を3枚重ね、上着も耐風性のものに替えた。いったん岩を乗越して薬師岳小屋へ、ここで積雪1m程だろうか。すぐ上の薬師岳山頂へ登る。野呂川から吹き上げる風が激しく、むき出しの地面や岩が見られ積雪量は少ない。観音岳への稜線も左側に雪はほとんどなくて右側に吹き溜まりができています。観音岳は山頂の大きな岩の重なりが風を遮ってくれてホッとすする。帰路も長い。地藏岳を見下ろし今回の山行をここまでと決める。不思議な力に感謝しつつ周囲の近い、遠い山山の白い連なりを一回り堪能する。ほぼ快晴という中で八ヶ岳に

は雲が懸かっていた。

コースタイム

12月21日；夜叉神峠登山口7：00—8：30 夜叉神峠—10：40 杖立峠—13：10 葎平—13：50 南御室小屋

12月22日；南御室小屋5：50—8：00 薬師岳—8：45 観音岳9：00—9：30 薬師岳—10：40 南御室小屋 11：30—12：20 葎平—13：30 杖立峠—14：50 夜叉神峠—16：00 夜叉神峠登山口